

映像情報メディア学会

起業工学研究会

<設立趣意書>

(1) 会の名称：マルチメディア・アントレプレナー・エンジニアリング時限研究会

(2) 発起人：水野博之（高知工科大学）、杉本昌穂（パイオニア）、浜口智尋（大阪大学）、倉重光宏（松下電器）、加納剛太（高知工科大学）

(3) 提案趣旨

情報通信技術革命を背景に大きく変革する世界経済のなかにあつて、日本の経済や社会には抜本的な構造改革が必要とされている。価値創造の原点が上流にシフトする知識経済・社会へ向けて「企業から起業へ」、「組織から個へ」とパラダイム変換が起こりつつある。映像情報メディア学会に、技術革新とこの経済、社会構造の変換をあわせて捉える新しい研究領域「起業工学：アントレプレナー・エンジニアリング」を提案し、その研究会の設立を要望する。米国ではすでに、IEEEの中でENGINEERING MANAGEMENT SOCIETYとして、このような概念を包含し、研究会、学会、論文誌の発行など活発な活動がなされている。日本では歴史的、文化的背景から、“個”をベースとした“アントレプレナー：起業”という概念の活動や研究が米国にくらべ著しく遅れている。本学会が技術と経営の融合を新しい学問領域“起業工学：アントレプレナー・エンジニアリング”として捉え、学会としての活動を開始することは真に機を得たものである。ここに研究会の設置を提案する。

(4) 取扱い分野

- ・映像情報メディア関連デバイス（ディスプレイ、半導体、メモリー）
- ・映像情報メディア関連システム（ネットワーク、ソフトウェア、マルチメディア）
- ・ビジネスモデル、ヴァリュエーション
- ・起業家研究（アントレプレナーシップ、リスクマネジメント）
- ・起業実践（ベンチャー、コーポレイトベンチャー）
- ・経営工学一般

(5) 体制および研究活動：3年間

委員長：加納剛太、幹事：濱口智尋、倉重光宏、田路則子、牧田寛と数名の委員から構成し、年2回程度の研究会を開催する。スタンフォード大学日米技術経営センター、コロラド大学応用研究コンソーシアム（仮称）等と連携する。